

---

# 令和3(2021)年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和3(2021)年12月6日  
栃木県農業環境指導センター

---

## ミナミアオカメムシの発生について

1 害虫名 和名 ミナミアオカメムシ  
学名 *Nezara viridula* (Linnaeus)

2 発生作物名：大豆

3 発生経過

令和3(2021)年11月、県南地域の大豆ほ場(2ほ場)において、本虫と疑われるカメムシ幼虫(図1)、及び成虫(図2)が確認され、栃木県農業環境指導センターにおいて形態的特徴からミナミアオカメムシと同定した。

本種は、西日本を中心に分布が拡大しており、近年では関東地方でも発生が確認され、平成22年以降、千葉県、神奈川県、東京都、埼玉県、茨城県で特殊報が発表されているが、本県における発生確認は初である。

4 被害の特徴

成幼虫ともに口針で植物の汁液を吸汁する。大豆では子実を吸汁し、着莢数の減少、変形粒及び変色粒の増加をもたらす。

5 形態

成虫の体長は12~16mm。アオクサカメムシ(図3)によく似ており、小楯板上端に3つの白い斑点があることは共通しているが、体がより縦長なこと、前胸背側角の突出が弱いこと、触角第3~5節の前半部が褐色(アオクサカメムシは黒色)であること(図4)、腹部背面(翅の下の腹板)が緑色(アオクサカメムシは基部2~4節が黒~黒褐色)であることなどで識別できる(図5)。成虫の体色は、アオクサカメムシと同様に多くの色彩変異がある(図6)。なお、4~5齢幼虫での識別は困難である(図7)。

6 生態

本種は熱帯から温帯地方南部に広く分布し、国内では本州、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布する。1~5齢幼虫を経過して成虫となり、国内では年3~4世代を経過する。成虫で越冬するが、最寒月の平均気温が5℃以下の地域では越冬できないとされている。

広食性で水稻、大豆、野菜類、果樹類等32科145種以上の植物を吸汁することが知られている。

水稻では穂を吸汁し斑点米を生じさせるが、斑点米カメムシ類の中では大型で斑点米産生能力が高いことで知られている。

7 防除対策

水稻、大豆、なすなどの果菜類、なしなどの果樹類等で被害が懸念されるため、本種を確認したほ場では、各作物においてカメムシ類に登録のある農薬で防除する。



図1 大豆子実を吸汁する幼虫（3齢）



図2 大豆葉に寄生する成虫

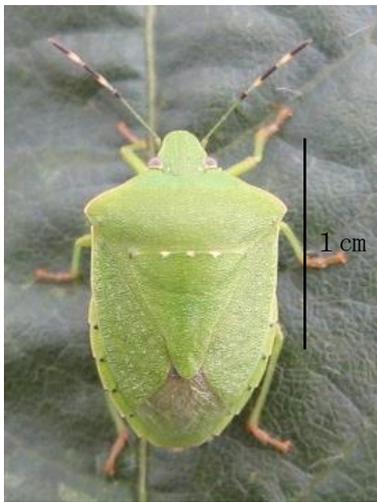


図3 アオクサカメムシ成虫  
(類似する種)

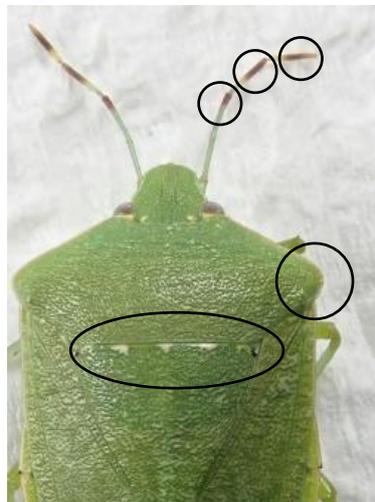


図4 成虫  
(触角、前胸背側角、小楯板の斑点)

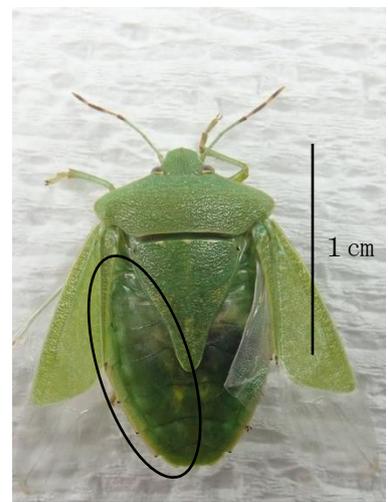


図5 成虫（腹部背面）  
(円内が一様に緑色)



図6 成虫（白色帯型）



図7 4齢幼虫

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。  
 病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、  
 農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。